

鐘楼

平等院の鐘楼は、その境内に残る三つの主要構造物のうちの一つです。何世紀にもわたる戦火により、平等院の宝物、お堂、塔は失われてしまいました。残ったのは、阿弥陀堂、観音堂、そしてこの鐘楼だけでした。

この梵鐘は阿弥陀堂の南側の池のほとりに位置する塔につるされていました。しかし、大気汚染により錆の被害が出たことや、文化財保護のために、1967—1972 年間に、本物の青銅製の鐘は取り外され、複製に置き換えられました。原物はミュージアム鳳翔館に展示されています。

平等院の梵鐘は、園城寺、東大寺のものと並び、日本の三大名鐘の一つになっています。平等院の梵鐘は、その模様の美しさから、三大名鐘の中で最高のものと称賛されることがよくありますが、他の二つはそれぞれ音と響きが最高峰であるとされています。梵鐘の上部分は龍の形を模しており、表面には獅子や鳳凰、天人の踊る姿が花や植物の模様の中に描かれています。

阿弥陀堂で行われる大晦日の催しでは、深夜を通して梵鐘が何度も鳴らされます。これは「除夜の鐘」と呼ばれ、一般客も鐘をつくことができます。